



一つの言葉を大切に

校長 新家子 直之



学校のシンボルのケヤキも色づいた葉を落とし始め、冬支度に追われているようです。街中はクリスマスの飾りやイルミネーションに彩られ、華やかな年末の光景が見られるようになってきました。

12月になりました。2学期も残すところあと17日、2019年はちょうど30日です。子どもたちには、ここまで頑張ってきたことを最後まで続けられるように、励ましながらしっかりと学期のまとめをしていきたいと思ひます。

さて、12月は毎年お話ししているように、10日は『世界人権デー』、4日～10日が人権週間と定められています。

昨今、世界には様々な人権課題があり、私たち一人一人が人権意識を高く持ち、その解決を図っていくことが求められています。

学校では、「人権」の言葉の意味を「人が誰もが幸せになる大切な権利として、生まれながらに持っているもの」と子どもたちに教え、人権を守るために実行していくこととして、①自分や他人の命を大切にする ②誰とでも仲良くする ことの二つを挙げて、クラスや学年で話をしていひます。そして、それを実現させていくために、これから”言葉を大切に使うこと”の指導に力を入れていきたいと思ひます。

特に、学校内で友だちを呼び捨てにしたり、乱暴な言葉を使ったりする場面が多く見られることから、もう一度友だちを「さん付け」で呼ぶことを徹底していひます。人を呼び捨てにすると、呼んだ後には心ない言葉、相手が傷つく言葉が続くことが多いものです。最近、言葉によるトラブルが多く、そこでいじめや不登校につながるような事案も起こっています。

子どもが「〇〇さん」と呼ぶことで、一度考える間ができ、柔らかい言葉を続けることができると思ひます。子どもたちが、自ら望ましい人間関係を構築していくためにも、言葉の持つ役割はとても大きいものです。ここでもう一度、言葉の使い方について一緒に考えていきたいと思ひます。

ただ、このことも学校の中だけで身に付くものではありませんので、ご家庭でも地域でも、相手に思いやりを持って、言葉を大切に使う習慣づくりにご協力いただければ幸いです。

もう一つ、私たち教職員が危惧していることがあります。それはSNSやゲーム上などで言葉の書き込みをしていることについてです。

相手の顔の見えないこの世界では、言葉も乱暴に送りがちで、受け取った相手が傷つくようなことが多く発生しています。

また、仲間はずれが起こったり、いじめの温床になったりすることもあります。

子どもたちがプライベートで行っているこうした行為は、学校だけではとても監視することができず、保護者の皆様の責任で見守っていただくことに頼るしかありません。

SNSにより犯罪・事故に巻き込まれることも後を絶ちませんので、子どもたちの様子をよく見ていただき、お気づきのことがあれば学校にご連絡ください。

言葉は、その力は大きく、相手を認め励まし、労ることもできる反面、傷つけ、打ちのめすこともできるものです。

本校の子どもたちが、自分の言葉を大切に使うことで、その子自身が大きく成長していけることを願っています。

「ひとつのことば」
北原白秋

ひとつのことばで けんかして
ひとつのことばで なかなおり

ひとつのことばで 頭が下がり
ひとつのことばで 心が痛む

ひとつのことばで 楽しく笑い
ひとつのことばで 泣かされる

ひとつのことばは それぞれに
ひとつの心を 持っている

きれいなことばは きれいな心
やさしいことばは やさしい心

ひとつのことばを 大切に
ひとつのことばを 美しく